



「いつでもどこでも必要な情報を引き継げる病院」
を目指して
診療記録を電子化&長期保管

導入の経緯：ペーパーレスによる情報共有が、病院戦略における最重要課題の1つだった

当院では、以前よりペーパーレスによる情報共有を病院戦略上の最重要課題と考え、大阪大学医学部附属病院の医療情報部が提唱する、DACS注1のコンセプトにも注目していました。既に電子カルテを導入していたものの、紹介状や手術同意書など「原本保管が必要な紙」はなくすることができず、保管費用の面でも効率化が必要でした。また、院内には看護システムやレポートシステムなど複数のシステムが稼働しており、それらを横断管理する仕組みも必要になっていました。

そこで、電子カルテおよび既存システムを、DACSを実現する富士ゼロックスの「ApeosPEMaster ProRecord Medical(以下ProRecord Medical)」と連携させ、これまで紙で保管していたものも電子化して、一元的に長期保管する仕組みを検討。「ここになければどこにもない」というDACSのコンセプト通り、「ProRecord Medical」だけで過去の診療記録を閲覧できる環境を構築することにしました。

数ある候補の中から「ProRecord Medical」を選んだポイントは、稼働実績とレスポンスの速さです。臨床病院で実験的な導入はありえません。電子カルテシステムを長時間止めずに導入でき、確実に稼働する高い信頼性が必須条件でした。また、どんなに素晴らしいシステムでも、データ検索に時間を要するものや作業が面倒なものは、医師は使ってくれません。短時間で閲覧できて使いやすいことも重要なポイントでした。

「ProRecord Medical」は阪大病院での実績があり、レスポンスが非常に速い。マトリックスビューや個別ビューなども見やすく、実際のフローに即しているので使い勝手が良いと感じました。導入後も心配していたトラブルはなく、院内でも好評です。また、診療記録を長期保管できるようになりますので、将来電子カルテやシステムが変わっても活用することができます。

注1 DACSは、大阪大学医学部附属病院 医療情報部が提唱されているコンセプトです。



理事長
吉川 公章 様



事務局 次長
加藤 彰裕 様

カンパニープロフィール

大同病院は、1938年に大同特殊鋼(当時大同製鋼)の病院として設立した急性期病院です。当時ここで産まれた赤ちゃんが職員になるなど、長きにわたり地域密着の医療を提供してきました。1985年には医療法人、2011年からは社会医療法人化。地域の公的医療、医療の公共性を重視し、強い理念を持って社員と地域住民の健康医療を担っています。

名称 : 社会医療法人 宏潤会 大同病院様
所在地 : 名古屋市南区白水町9番地
URL : <http://www.daidohp.or.jp/>

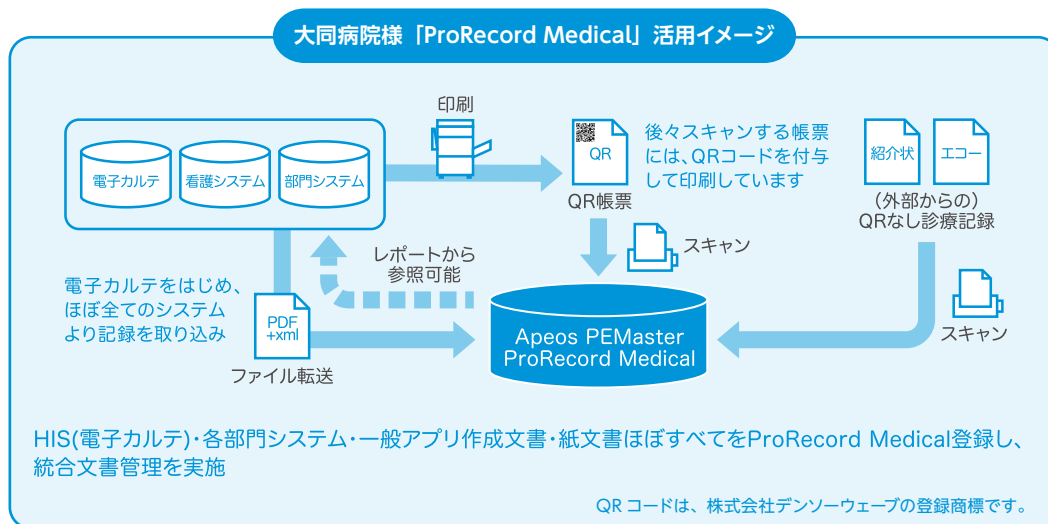
導入の効果:本来業務に集中できるようになり、医療サービスが全体的にレベルアップ

まず、カルテ庫への保管業務の撤廃です。従来はカルテ管理士が2人がかりでこなしていた作業ですが、彼らの本来業務はカルテの質を管理すること。煩雑な保管作業に割かれていた時間を、記載内容の確認などの実質的な管理にあてられるようになりました。次に、医師や診療側が患者の経過を見る際の利便性向上です。さまざまな文書を「ProRecord Medical」で一元管理することによって、カルテの管理と閲覧が容易になりました。

運用にあたって、より臨床に即するよう、機器配置について細かい検討を重ねました。スキャンセンターを配置する集中型の運用方法もありますが、当院ではセンターもスキャン専任の人員も置かない分散型を採用し、スキャナーをたくさん配置して各部署で完結させるようにしました。「できる人がその場で溜めずにスキャン」が基本ルールです。スキャンした原本を控えとして患者に返却し、不要になった書類は廃棄するなど、紙を残さないように徹底しています。

今後の高齢化社会や医療改革において、患者が「自分の診療記録をどこでも見られること」はますます必須化していくでしょう。いつ訪れても自分の診療記録があり、病歴を把握した上で診療してくれる病院があれば、誰でもそちらを選びたいはず。当院は、いつでもどこでも正しい診療を受けられるよう、必要な情報を引き継げる病院でありたいと考えています。

特に高齢の患者ですと、老人医療施設やケア付き施設に入所する際に、ペースメーカーを入れた経緯や手術履歴、服用中の薬など、あらゆる過去の履歴がたどれない、といったことが多々あります。そんなときこそ、「ProRecord Medical」で長期保管している診療記録が活用できそうです。急性期病院と介護施設では必ずしも利害関係が一致するとは限りません。それでも各医療機関が一体化していけば、皆が同じ土台で、上下でなく水平レベルで患者をケアできるはず。ProRecord Medicalがそうした水平レベルの患者ケアを実現するツールになればと願っています。



お客様コメント

「ProRecord Medical」の導入で、当院が期待していたことは100%実現できました。これまで、カルテ庫への保管業務はカルテ管理士が2人がかりで作業していましたが、その時間を記載内容の確認など、彼ら本来の業務であるカルテの質の管理にあてられるようになりました。さらに、さまざまな文書を「ProRecord Medical」で一元管理することによって、カルテの管理と閲覧が容易になり、医師や診療側が患者の経過を見る際の利便性が断然良くなりました。こうした効果のおかげで、間接的に当院の医療サービス全体のレベルアップにつながったのではないのでしょうか。

営業コメント

大同病院様は、紙文書を院内に残さない環境を作るために、文書管理システムを検討されていました。そして、時系列でふかん可能なマトリックスビューにより、基本画面が見やすく閲覧しやすい「Apeos PEMaster ProRecord Medical」を選定いただきました。カルテ記事・部門システムなどの電子文書・紙文書といった、ほぼすべての診療記録を一元管理・長期保管が可能になり、過去履歴を短時間で容易に閲覧できるようになりました。このことが、医療の質とサービス向上のお役に立てれば幸いです。

(右から)
富士ゼロックス愛知株式会社
第二営業統括部 名南支店 南2課
安藤 誠

富士ゼロックス中部株式会社
システムエンジニアリング部
業務ソリューション技術2グループ
医療ソリューション技術チーム
増井 亮介

